

平成 29 年度 決算 の 概要

平成 29 年度の鉄鋼学園の決算について概要をお知らせします。

貸借対照表は、年度末における法人の資産総額と、それが借入金などの負債や自己資金である基本金、および内部留保である繰越収支差額からなりたっていることを表しています。平成 29 年度末の資産総額は、59 億 6,200 万円で、前年度より 1 億 8,400 万円増加しました。固定資産のうち、建物などの有形固定資産は、耐震改修工事の実施などにより 3 億 2,100 万円増加しています。特定資産（積立金）は、耐震工事費に充てるために取崩しを行ったことなどにより 2 億 2,100 万円減少し、19 億 7,000 万円になりました。

負債は、土地信託事業での保証金の償還などにより固定負債は減少しました。負債全体で、前年度より 3,100 万円減少して 8 億 4,900 万円となりました。

基本金とは、学校の教育研究活動のために保持すべき土地・校舎・設備などの金額のことで、第 1 号基本金が耐震改修工事や教研用備品などの設備投資による組入れにより 2 億 4,700 万円増加しました。繰越収支差額は、3,100 万円減少しましたが、基本金と合わせた純資産としては、2 億 1,500 万円増加し、51 億 1,200 万円となりました。

資金収支決算書は、その年度の教育・研究活動や管理運営などに伴う資金の使途と、これに対する資金の収入、調達のすべてを明らかにしたものです。平成 29 年度決算では、学費、補助金収入や、前受金収入などに前年度からの繰越資金を加えた資金収入総額が、29 億 8,800 万円になり、そこから人件費、物件費・設備投資支出や積立金への積立て支出などを差し引いた次年度への繰越資金は、前年度より 2,800 万円増の 7 億 6,400 万円になりました。この金額は、貸借対照表の流動資産中の現金預金の額と一致することになります。

事業活動収支決算書は、企業の損益計算書にあたるもので、収支状況を、経常的なものと臨時的なものに区分し、さらに経常的収支を、教育活動と教育活動外の金融収支とに分けて把握できるようになっています。全体として、基本金組入（設備投資）前の収支バランスがどうかをみます。平成 29 年度は、学費、寄付金、補助金収入などの経常的な教育活動収入は、前年度より 1 億 4,000 万円増の 13 億 5,300 万円でした。一方、人件費や物件費などの経常的な教育活動支出は、耐震改修に合わせて外壁補修屋上防水工事などを実施したことにより 12 億 5,300 万円となり、教育活動に伴う経常的収支は、1 億円のプラスとなりました。利息収入などの教育活動外収支を加えた経常的収支は、1 億 500 万

円のプラスになります。これに、耐震改修工事に対する補助金収入などの臨時的な収支が加わり、平成 29 年度の基本金組入前の当年度収支差額は、2 億 1,500 万円のプラスになりました。

ここから、いわゆる設備投資にあたる基本金組入額を控除することになります。29 年度は、耐震改修工事や教育用設備の取得など 2 億 4,700 万円を、基本金組入額として計上しました。この結果、基本金組入後の当年度収支差額が、マイナス 3,100 万円となりました。

前年度からの累積収支差額は、プラス 3 億 1,600 万円あり、この額に上記の当年度収支差額 3,100 万円をマイナスした当年度末の累積の収支差額は、プラス 2 億 8,400 万円となります。